

学部	人数枠	資格	氏名	現在の担当授業科目	期間	主たる研究先	研究目的
法	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	孝忠延夫	憲法一部 専門演習 専門演習 憲法 M憲法学研究演習 M憲法学研究演習	12.10.1 ～ 13.3.31	1. 本学 2. アジア経済研究所 3. 東京大学東洋文化研究所	1. 基本的人権の普遍性めぐる論議は、国民国家のゆらぎの中で、非西欧社会をも視野に入れた分析を意識しつつ行われるようになってきた。かねてより、インド憲法を手がかりに考察を深めてきたが、それらの研究をとりまとめ、全面的な再検討を加えたうえで1冊のものに集約してみたい。 2. 議会の機能強化について、これまでに著してきた論考をふまえ、かつ、日本における議院内閣制論の動向をも視野に入れて、国政調査権の研究を集大成してみたい。
文	前期2名 後期1名 または、 前期1名 後期2名 の3名以内	教授	尾崎 實	専門中国語(二) 専門中国語(三) 卒業演習 D中国語学特殊研究演習	12.4.1 ～ 12.9.30	1. 上智大学図書館 2. 東洋文庫 3. 自宅	論文として、およそ20編分の資料を整理して、形あるものにまとめる。
		教授	伴 義孝	保健体育理論 基礎体育学 応用体育学 スポーツ研究 スポーツ研究D	12.4.1 ～ 12.9.30	1. 各大学(東京女子大学、日本体育大学他) 2. 本学 3. 自宅	授業開発研究に資するため。
		教授	岡村達雄	教育行財政論 教育学演習(二) 卒業演習 M教育計画研究講義 M教育計画研究演習 D教育計画特殊研究演習	12.10.1 ～ 13.3.31	1. 自宅 2. 関西大学図書館	現在の研究課題である近・現代公教育に関する歴史分析および理論的考察を進め公教育論をまとめる。

*年齢及び在職年数は、平成12年4月1日現在である。

学部	人数枠	資格	氏名	現在の担当授業科目	期間	主たる研究先	研究目的
経	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	堀江 義	経済数学 経済学演習 経済学演習 国民所得論 マクロ経済モデル M数理経済学研究講義 M数理経済学研究演習 D計量経済学特殊研究講義 Dマクロ経済学特殊研究論文指導	12.4.1 ~ 12.9.30	1. 自宅 2. 統計数理研究所	研究の主要な課題は、ケインズの理論をベースにしながら、マクロ経済の理論を統一的に把握することにある。 そこで、ケインズを理解する際に、ケインズにおける確率論の考え方が従来はあまり注目されていないが、これを正確に理解する必要があると考える。幸い、数年前から統計数理研究所の松縄規教授の協力を得て、「ケインズにおける確率論」をテーマに共同で研究を行っている。 本研究も来年度はまとめの時期と予定しているので、統計数理研究所での研究会にも積極的に参加したい。
		教授	石田 浩	経済学演習 経済学演習 外国経済論 経済学特殊講義 (経済政策特殊講義) 基礎演習 M経済発展論研究講義 M経済発展論研究演習 M経済発展論研究論文指導 (M論文指導演習) D経済発展論特殊研究講義 D経済発展論特殊研究演習 D経済発展論特殊研究論文指導	12.10.1 ~ 13.3.31	1. 研究室 2. 本学学术交流提携校 (中国)[交換研究者 派遣申請予定] 3. 台湾中央研究院ないし台湾の大学[客員教授申請予定]	一貫して中国と台湾において調査研究に従事し、計8冊の専門書を公開出版してきた。本年度末には経済・政治研究所から『中国農村の開発戦略』を上梓する予定である。ところが、近年はこれまでの研究蓄積をアウトプットするだけで、インプットする余裕がなく、研究蓄積の必要性を痛感している。 これまでの調査資料を整理する余裕がなく、論文作成にまで至っていない。そこで、最近の研究動向のインプットと同時に、研究資料の整理をする必要があり、この機会を利用してこれらの諸問題を処理したいと考えている。
商	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	三上 宏美	交通・通信論 演習 演習 M交通論研究講義 M国際交通論研究演習	12.4.1 ~ 12.9.30	1. 本学 2. 都市交通研究所 3. 自宅	1980年代半ば以降、交通及び通信事業分野では英・米に端を発する規制政策の改廃により、日本においても電々公社、KDD、国鉄などの民営化にみる如く、かつてない激動変化を経験した。 この現実および政策の変化は非常に急激であったため、理論研究は一部変革をリードしたものの、それを含めて伝統的経済理論を併せて再検討が迫られている。 規制政策変化後の現実と理論、政策を集中的に研究するため相対的長期の時間が必要となった。 以上、研究の深化、up to date により講義面での内容も学生の具体的関心に沿えるよう準備しておきたい。

* 年齢及び在職年数は、平成12年4月1日現在である。

学部	人数枠	資格	氏名	現在の担当授業科目	期間	主たる研究先	研究目的
商	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	鶴田 廣 巳	財 政 学 演 習 基 礎 演 習 日 本 事 情 M 税 制 論 研 究 講 義 M 税 制 論 研 究 演 習 D 税 制 論 特 殊 研 究 講 義	12.10.1 ~ 13.3.31	1. 本学 2. 自宅	法人課税論は租税論の中でも最大の難問とされ、これまでも神学論争と形容される議論の蓄積が存在するものの、十分な共通認識が得られていない領域である。しかし、近年、経済のグローバル化とともに、各国資本のM&Aや国際的企業活動が活発となり、その課税問題が改めて注目を集めるようになってきている。したがって、この面での研究も高まりをみせている。これまでも、この分野での研究を進めてきたが、まとまった研究時間を得て、より一層研究の進展をはかりたい。
社	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	松原 一 郎	社 会 福 祉 学 基 礎 演 習 専 門 演 習 卒 業 研 究 社 会 学 総 論 総合コース「老いを考える」 M 社会福祉学演習演習 M 社会福祉学研究講義	12.4.1 ~ 12.9.30	1. 研究室 2. 自宅 3. 厚生省	社会福祉基礎構造改革にみられるように、戦後の社会福祉制度は今やその様相を根底から変えつつある。この期において、社会福祉政策の潮流をしっかりとつかみ10数年におよぶ研究成果の一つのとりまとめの前段階としたい。
総情	前期1名 後期1名 の2名以内	教授	山内 昭	情 報 管 理 経 済 情 報 モ デ ル 基 礎 演 習 基 礎 演 習 専 門 演 習 卒 業 研 究 M 経営モデル分析 M 産業情報システム「組織的意思決定の 情報・管理システム」 D 社会地理学特殊研究講義	12.4.1 ~ 12.9.30	1. 神戸商科大学商経 学部 2. 檀原市、高砂市、 三郷市他	予てより構想の、地域（都市）における意思決定と情報システムの関係について経営情報管理の視点から系統的に解明し、その全体像を著作として仕上げたい。
		教授	山名 年 浩	経 済 学 基 礎 演 習 基 礎 演 習 専 門 演 習 卒 業 研 究 応用シミュレーション実習	12.10.1 ~ 13.3.31	1. 京都大学経済研究所 2. 京都大学経済学部	経済理論とその実証について研究してきたが、この分野で先端の研究成果をあげている京都大学の経済研究所で深く学びたいと考えている。とりわけ、現実を反映したマクロ経済モデルの形成と現実のギャップについて、現実そのものを数理的に解明する研究（カオス的分析を含む）を深めたいと思う。この数年間の私の研究成果をもち、新たな経済予測・景気予測の理論と実証手続を生み出すことを求める。

*年齢及び在職年数は、平成12年4月1日現在である。